

大分からケニアへ！ JICA と共生の会、科学的根拠に基づくリハビリテーションの導入を支援

独立行政法人国際協力機構（所在地：福岡県北九州市、以下「JICA」）は、2024年10月16日より、一般社団法人共生の会（所在地：大分県大分市）と協力し、草の根技術協力事業（*）『ケニア国内のセラピストによる持続可能なリハビリテーション評価治療システム構築プログラム』を開始しました。

ケニアでは経済成長に伴い、インフラ整備や交通量増加による事故等による、障害が増加しています。加えて、近年 HIV/AIDS やマラリアなどの感染症による死亡者数が減少する反面、脳血管疾患や心疾患、がんなど運動不足や偏った食生活、多量の飲酒、喫煙などの生活習慣が引き金となって起こる疾患が増加しています。

ケニア保健省は、治療方針や内容が盛り込まれた脳卒中ガイドラインを作成するなど対応を進めていますが、リハビリテーションへの対応が進んでいません。その結果、セラピスト（理学療法士、作業療法士）は十分な知識と適切な評価方法を以て診断をせず、臨床についています。

本プロジェクトでは、ケニアの中核的な病院であるケニヤッタ国立病院において、セラピストに対して正確な評価技術に関する研修を実施し、疾患別評価データを基にしたリハビリテーション実施計画書作成や計画書に基づいた治療の導入を図ります。

1. 概要

- (1) 事業名：草の根技術協力事業『ケニア国内のセラピストによる持続可能なリハビリテーション評価治療システム構築プログラム』
- (2) 事業目的：
標準化された疾患別評価やリハビリテーション実施計画による適切なリハビリテーションがケニヤッタ国立病院に導入され、ケニア国内のレファラル病院に普及する仕組みが整う。
- (3) 対象地：ケニア国ナイロビ他
- (4) 事業期間：2024年10月16日～2027年10月15日
- (5) 事業実施団体：一般社団法人共生の会 <http://i-kyouseinokai.com/>
- (6) 相手国実施機関：ケニヤッタ国立病院

2. ポイント

- (1) **ケニアでの長期にわたる豊富な協力経験を活用したセラピスト育成**:事業実施団体である共生の会は、2016 年以降、ケニアの医療技術の向上を支援。現地で Forest Japan Medical Centre を設立・運営するなど、長年にわたりケニアの医療水準向上に貢献。
- (2) **科学的根拠に基づくリハビリテーションの導入・定着を支援**:ケニアのセラピストは世界標準の評価制度を習得している割合が低く、臨床で使用されていない。その結果、セラピストは適切なリハビリテーションの介入が出来ていない。そのため、本プロジェクトを通じて、知識の習得を進め、患者にとってのリスクを軽減させる。

■独立行政法人国際協力機構(JICA)について

JICA は、開発途上国が直面する課題を解決するため、技術協力、有償資金協力、無償資金協力など日本の政府開発援助(ODA)を一元的に担う二国間援助の実施機関で、150 以上の国と地域で事業を展開しています。

国際社会の課題は日本とも密接に関係しています。国内外のパートナーと協力してそれらの解決に取り組み、世界の平和と繁栄、日本社会の更なる発展に貢献します。

詳しくは <https://www.jica.go.jp/index.html> をご覧ください。

(*)草の根技術協力事業とは、国際協力の意志のある日本の NGO/CSO、地方自治体、大学、民間企業等の団体が、これまでの活動を通じて蓄積した知見や経験に基づいて提案する国際協力活動を、JICA が提案団体に業務委託して JICA と団体の協力関係のもとに実施する共同事業です。参考 URL: <https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/what/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】
JICA 九州 市民参加協力課 小坪
TEL 093-671-8210 e-mail : Kotsubo.Suzue▲jica.go.jp
(▲を@に変更ください。)